

第 二 三 号
五 册 内 第 二

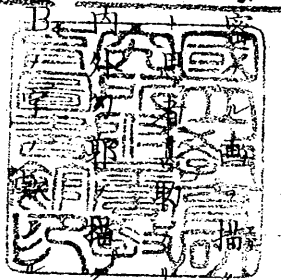
官 西 畫 指 南

前 編

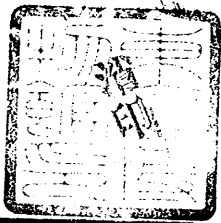
下

教育館

博物印



交付



明治九年五月十一日交付

西畫指南卷之下

第二章 物形ノ陰陽ヲ分ツ法

今初學ノ画ヲ學ンニハ彈藥包ニ用ル紙ヲ供用

スレテ善トス是ハ其面粗澁ニシテ能筆ヲ受且

ツ能摩リ落サルハナリ其上ハ廉價物ナレハ生

時ニ至迄種々ノ練習ヲナ

トス○石筆モ少許ハ供用

ニハ堅方ヲ善トス影ヲ描

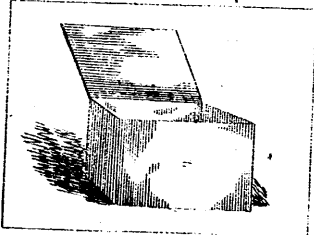
石筆最良トス此圖ヲ寫又

Case 52

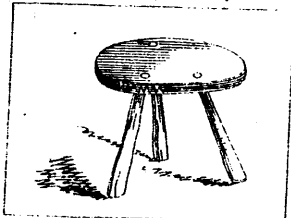
類屬書類
西冊屬類
四五畫教
學育
二冊。四册

外ノ画ニテモ影ヲ描者ニハ影ヲ描ガサル前ニ先
 輪郭ヲ描ヘン○其影ヲ描ノ法ハ淡濃適宜ヲ得
 マテ一舉シテ之ヲ描クヘシ其一區ヲ描キ或ハ
 他ノ一區ヲ描キ又再三塗抹シ濃黒ニナス等ハ
 丁ハアシ、○前ノ如ク再三スルハ墨氣模糊
 トシテ且筆痕氣カナキニ至ル故ニ一舉シテ之
 ヲ竣スヘシ凡テノ画方皆然リ
 第一ノ圖ハ甚タ容易ニ画キ得ヘシ
 第一ノ圖、輪郭、第一章ニバヘル法方ニテ引ク

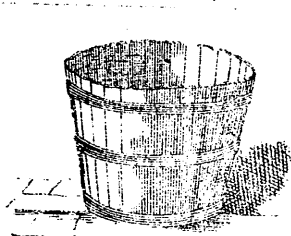
第一圖



第二圖



第三圖



ヘシ其影ハ上ヨリ下迄整然一舉シテ引クヘシ
 若シ再三セハ變味タル黒影トナルベシ横線ヲ
 其次ニ入ルヘシ是ハ僅少ノ圓渾ヲ附ル迄ノ一
 ナリ

第四圖

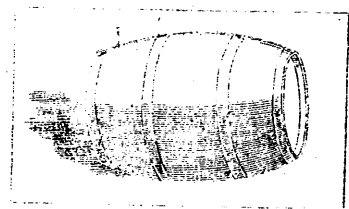


第四圖ニテ橢圓ノ左側ノ縁
下邊ヲ頗ル強ク引キテ陰影ヲ
示シタルハ前後ヲ明瞭ニスル
ノ法ナリ

第五圖六圖ハ橢圓ヲ活用シタ
ル手本ナリ

第七圖ヲ寫スニハ奇麗ニ缺ケタル輪郭ヲ預メ
描クヘシ陰影ハ容易ナレハ此ニ贅語セス
第八圖ハ其輪郭ヲ先ニ描キ葉ノ筋ハ柔軟ニ描

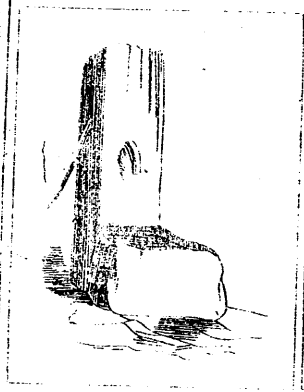
第五圖

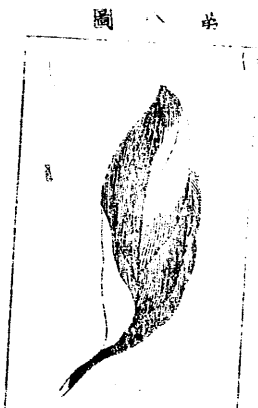


第六圖

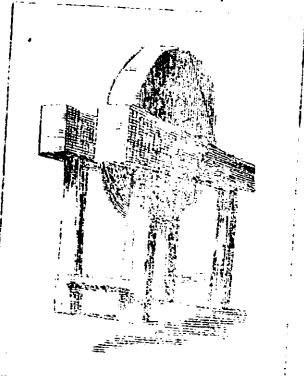


第七圖





第八圖



後ニ影ヲ強ク入ル是ニテ卷キタル葉ノ向背
 明瞭ニ見スルナリ○其次第九圖ノ砥石ノ画
 寫スニハ輪郭ヲ正シク描ク為メニ先ニ諸部
 平衡ヲ注意シ臺ヲ先ニ描クヘシ此處ハ照景

法ノ考ヲ起スヘシ

後編ニテ照景法ノ術ヲ詳ニ説話スヘシ○

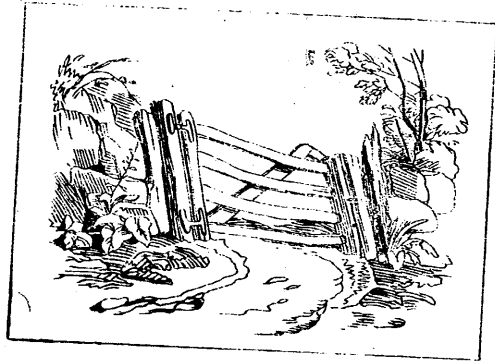
照景法ヲ學フ以前先ツ目撃ノ寫真ヲ更ニ

熟練スヘシ○故ニ照景法ノ章ヨリ前ニ先

ツ其一ニヲ豫言スルノミ

臺ヲ描キタラハ砥石ノ橢圓ヲ引クヘシ臺ノ後
 部ハ後ニテ摩リ去ルヘシ影ノ演暈方ハ近キ方
 ヲ速キ方ヨリモ暗クスヘシ是ニテ遠近相隔
 テ見ユルナリ

第十圖

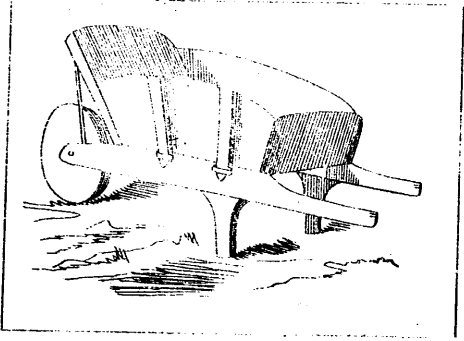


凸起シテ見スルナリ此法ヲレリーフト云譯シ

第十圖ニハ村舎門巷ノ風景ヲ出シタリ是ハ甚容易ナレハ敢テ辨ヲ費サス

第十一圖ハ尋常ノ家具ニテ唯陰陽ノ理ヲ示スモノナリ其陰影ニヨリテ向陽ノ處ヲ

第十一圖



ヲ悟ルコトモ亦甚速カナリ

テ反對凸凹ノ義ナリ
○此法ハ画家ニ在テ一大秘訣ナリ
○因ニ云フ画匠ハ人ヲ反對スルヤウニ置テ右ノ法ニテ簡場ノ圖ヲ敷試ミ習フヘシ極テ益アリトスサレハ此法

第二十圖



第十二圖モ同シ
陰陽ノ理ナレト
モ是ハ前圖ト相
反スルモノニシ
テ陰ト陽トヲ交
シヘ木材ノ上側
ヲ向陽ノ処トシ
其側ハ薄ク渲染
セリ

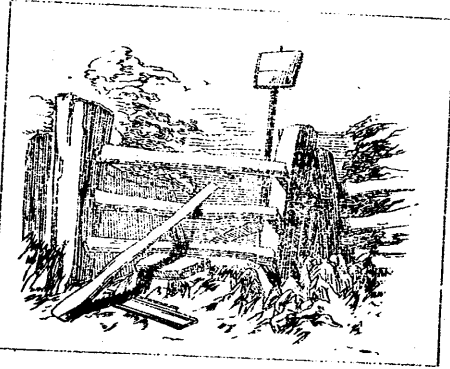
第三十圖



第十三圖ハノクシア
ノ葉ニテ第一章ニ説
キタル仕方ニテ輪郭
ヲ描キ影ハ第八圖ノ
法ニ均シ○是ヲ寫シ

了ラハ此葉ヲ各種ノ方向ニナシ陰陽ノ數種ヲ
研究シテ描クベシ○是ハ画家寫真ヲスルニ甚
好キ修業ナリ
第十四圖ハ牧場ノ入口ニテ十一及ヒ十二圖ニ

第四十圖



第十五圖ノ花卉ヲ描クノ
瞭ナリ
法方ハ圖上ニ於テ明

示シタル及對凹凸ノ
理ヲ再ヒ詳カニ知リ
得ヘシ圖中斜ニ架シ
タル棒ノ如キハ前ノ
陰影ハ陽方ヲ前ニ見
セ此陰ト陽ニテ後ニ
遠景アルヲ知ラシム

第五十圖



第六十圖



第十六圖ノ及
對凹凸ノ描法
ハ第八圖ノ法
ニテ推知ハハ
シ
第十七圖ニ出
セルハ土大黃
ノ葉一簇ナリ
是初學ノ輩ニ

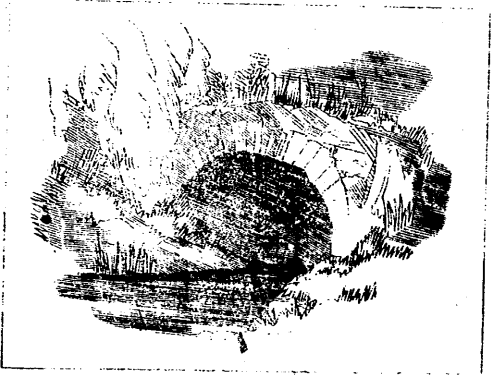
第十圖



葉給て一堀ノ如ク固著シテ見ユルナリ

好手本ニ其草ハ田野
隨所皆アリ此手本ヲ
習熟セハ此草ノ寫真ヲ
練熟スルヲ最良シトス
其葉ト葉ハ互ニ交對
凹ヲナスノ所ヲ注意シ
見認ムヘシ若シ交對ノ
處著ルク無キ片ハ其數

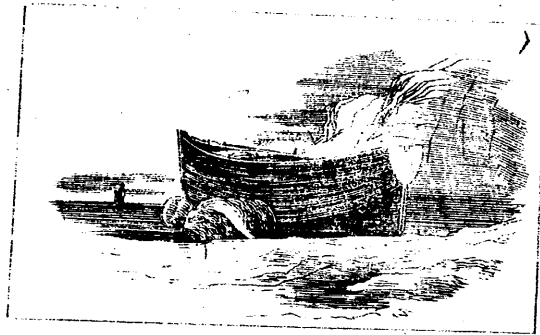
第十八圖



家ノ徽籩ナリ是ハ船尾ノ日方ノ前ニ薄キ影計

第十八圖ハ林下洞口
ノ景ニテ其上ヘニ枝
葉蕭蕭セル所ナリ是
ハ陰陽向背ノ理多少
ノ勞ヲ用ヒス甚容易
ク描キ得ルヲ示レ
タルナリ

第九十圖



第十二圖



ニテ見セ

タルモノ

ナリ

第二十圖

ハ「ドツ」

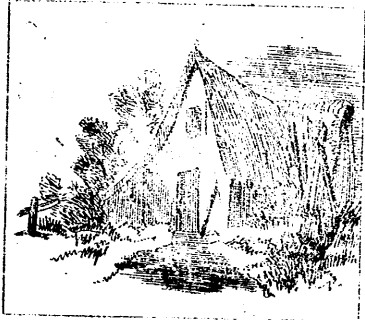
草ノ一簇

ナリ

第二十一

圖モ簡單

第十二圖



ノ画ナリ是ハ共ニ辨解ヲ待スシテ知ルヘシ

第十二圖ハ繪樹ノ葉

ナリ是ハ画家勉クテ線

ヲ少クシ此圖ノ如ク葉

ノ形状ヲ想像スヘキ程

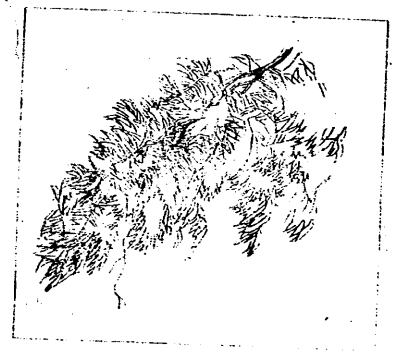
ニ影ヲ描クヘシ

第二十三圖ハ秦波樹ノ枝葉ヲ描寫スル法方ニ
テ葉ハ速成ヲ決トシ枝ハ交加ニ屈曲スルニ長

圖 二 十 二 第



圖 三 十 二 第



第 二 十 四 圖 ハ 榭 樹 ノ 法 ニ テ 前 ノ 樹 ヨ リ ハ 描 法 甚 異 ナ リ ○ 解 ノ 枝 ハ 互 ニ 錯 雜 シ テ 枝 状 ノ 稠 密 限 リ ナ シ 葉 ハ 秦 皮 ノ 葉 ヨ リ テ 猶 三 角 状 ニ 描 ヲ

ヘ シ 然 レ 氏 漫 ニ 亂 雜 ニ シ テ 疎 密 宜 キ ヲ 失 ヲ ハ カ ラ ス

圖 四 十 二 第



第 二 十 五 圖 ハ 柳 葉 ノ 画 ヲ ノ 法 ナ リ 是 ハ 畧 秦 皮 樹 ト 同 シ

第 二 十 六 圖 ノ 風 車 ハ 其 輪 郭 ヲ 斷 々 ノ 法 ニ テ 描

キ 此 物 ニ 比 倫 ス 可 キ 景 物 ヲ 増 添 ス ヘ シ 草 ハ 麤 漏 ニ 描 キ テ 可 シ

圖五十一第



圖六十二第



第二十七圖ハ留意シテ輪郭ヲ描キ影モ丁寧ニ
演繹シ暗処ハ最後ニ之ヲ成スベシ

圖七十二第



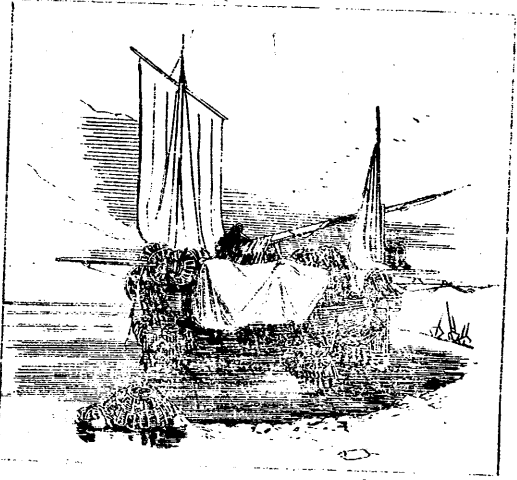
第二十八圖

ハ物ノ木ニ
映スルノ理

ヲ示サシガ
為ニ船ノ圖

ヲ出セリ○波濤ナキ静カナル水上ニ在ル物体
ハ之ヲ反射シテ大抵其物ト一様ニ見ユルモノ
ナリ唯其涵映ノ影ハ實物ヨリハ少シ曖昧ナリ
水面色暗黒ナレハ其光リモ愈々薄カルハシ

圖八十二第



ヲ成ス一ヲ要スヘシ○圖ヲ熟覽セハ其描法如

第二十九圖ハ先

ツ注意シテ輪郭

ヲ描キ影ハ頂端

ヨリ起テ下方

迄蕪穢ナラサレ

ヲ要シ○卷葉ヲ

描クニハ留意シ

テ是ニ反對凸凹

ヲ是ニ反對凸凹

圖九十二第



見セシムルナリ○莖及ヒ花ヲ描ク一ハ第三十
圖ノ黄花紫羅爛花ノ花ニテ示セリ是モ前ノ如
クスヘシ

何ヲ知ルハ

キノミ葉ノ

陽方ニ反翹

シタル處ハ

陰影ニテ是

ヲ突起シテ

第三十一圖



鮮トシ樹木ノ枝葉ニ及フヘシ樹幹ノ輪郭ハ注
意シ灑落ヲ趣トシ描スヘシ是樹幹ノ輪
郭ハ全景ノ勢ニ關係ズル故ナリ○陰影ハ勉テ

第三十一圖ハ
斷株
及石
ヲ起

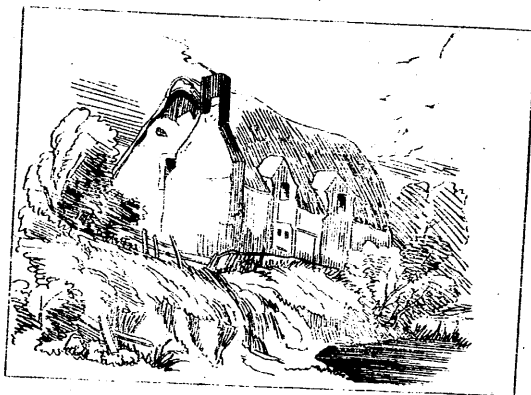
第三十一圖



反對凹凸如何ヲ察スヘシ○三十二圖ニ出セル
舊キ農家ノ圖ハ其光リ屋宇ノ側面ヲ映ス正画

一度ニナルヲ要
ス再三反復スル
一莫カルヘシ否
ザレハ整然ナリ
難シ此法ニ由リ
テ斷株ハ其背後
ノ陰影ノ一塊ト

第三十二圖



ニ雜草ノ榮茂ヲ描
キ其前ハ陰影ニ覆
ハル是ニテ家ヲ前
ノ方ニ寄レタル也
○前景ハ其處ニ在
ル物ノ性ニ從テ陰
影トナシ或ハ日向
トナスモ各相反對
スルノ理ヲ失フ可

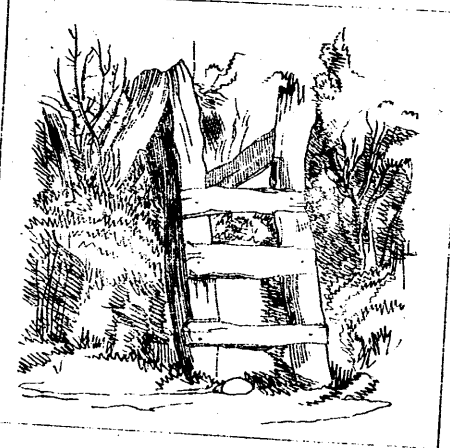
第三十三圖



カラス
抑前景
ハ全句
ノ眼目
ニシテ
大ニ画
勢ノ闕

係スル所トレハ漫然塗抹
第三十三圖ノ老擱樹ノ画ハ其樹間ヲ助ケル爲

第三十四圖



水草ト枝葉少許ヲ陰影ニ成シタリ若シ是ヲ日方ニ為サハ全景ノ勢ヲ失フヘシ

第三十四圖ハ廣ク光線ノ映レタル景ニテ上方ハ後景ノ木葉ト相反對シ兩側ノ舊牆ハ暗クシタリ
○画家ハ平日斯

第三十五圖



ノ如ク田疇ノ物象ヲ能ク眺望シ其景ヲ各處ヨリ見テ寫真スヘシ

第三十五圖ノモス蔷薇花ハ既ニ論セシ花卉ト同法ニテ

画クヘシ

第三十六圖



郭ヲ丁寧ニ描キ地ノ陰影ハ次ニ勉強シテ平等ニ描キ俎其次ニ葉ノ形状ヲ描シ次第ニ全体ノ輪郭ノ陰影ト缺損セシ處ヲ描クヘシ

第三十六圖
ハ古昔ノ物
ヲ彫リ附ケ
タル柱ノ斷
先ナリ○先
ツ最初ニ輪

第三十七圖

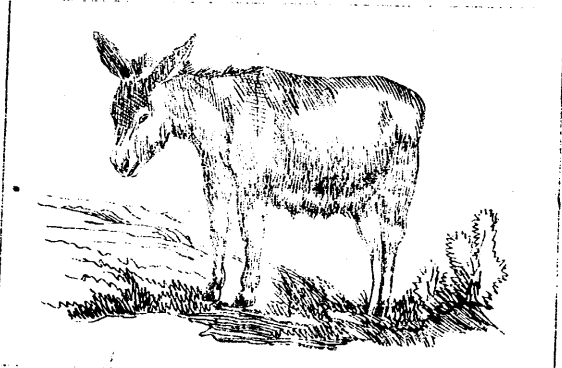


第三十七圖ノ画
ヲ臨寫スルニハ
先ツ橋ノ圓形ノ
處ヨリ起手シ次
ニ上部ニ及ビ而
メ全体ノ輪郭ヲ
描クヘシ其後橋
邊ノ樹葉ハ甚ク
黒キニ失セサル

ラ留意シ其光景ノ遠近向背ヲ明瞭ニ描クベシ
 ○總テ尋常ノ規則ハ遠景ハ其影大氣ノ翳速ス
 レ理ニ由テ漸次ニ淡クシテ總テ暗處ハ光處ヨ
 リ甚早湏減スルノ理ナリ○茲ニ出セル画ハ光
 線ノ普ク映シタル光景ナリ○此甚強ク影ヲ帶
 ヒタル僅少ノ水草ニテ前景ニ好景色ヲ添ヘタ
 ルナリ此水ハ流水ナレバ其反射不分明ナリト
 ス

第三十八圖ノ驢馬ハ最初ニ丁寧ニ其輪郭ヲ描

第三十八圖



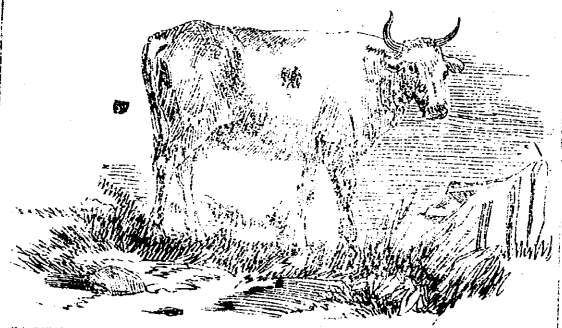
キ次ニ其強ク陰影ヲ
 施シ筆力蒼古ノ意ヲ
 帶ヒテ描クヘシ○既
 ニ前ニ擲樹ノ葉ヲ描
 ク法ノ一種ヲ示シタ
 ルカ今又別ニ一法ヲ
 示スヘシ即○第三十
 九圖ニテ大樹ヲ主ト
 シ描キタルハ是ナ

第三十九圖



リ近ウ
十枝ヲ
生スル
本ナル
遠枝ハ
濃クス
ヘシ○
此画ニ
テ山水

第四十圖



ノ景色ハ甚容易ニ寫
シ得ル一ヲ知ルヘシ
第四十圖ハ先ツ影ヲ
渲瀾スル以前ニ注
意シテ輪郭ヲ描ク、
キヲ要ス○陰影ハ頭
ヲ最初ニシ次ニ頸ヲ
渲暈ス其頭ヲ斜ニ見
セテ近クスル、法ナ

リ○苔草ハ筆力ノ通勁ナルヲ欲ス又全局ノ勢ヲ得ル爲メニ適宜ノ所ヲ得テ濃墨ノ影ヲ入ルハシ

第四十一圖ハ最初ニ注意シテ輪郭ヲ描キ次ニ樹ノ各様ヲ描キ枝梢ノ状及ヒ家屋ヲ描クヘシ其後遠景ニ相對スル樹ト葉ヲ描キ終ニ前面ノ地並ニ水ヲ描クヘシ

第四十二圖ニ出ワル古昔ノハリス花類ヲ寫ス
第一章ニ說示シタル規則ハ無量ノ大功用



第四十一圖

山水畫法

卷一

國畫研究會藏書



ノ諸部ハ中央線ヨリ兩側ノ距離平正ナリヤ否
 ヤヲ目計スハシ○先ツ諸部ノ各様ナル處ヲサ
 シ置キ最初ヨリ數度描キ試其度毎ニ圖ヲ點驗
 ヲ描キ下端
 キ次ニ楕圓
 下ハ線ヲ引
 ニ中央ヨリ
 ○先ツ起手
 ラナスヘシ

シ漸クニ添加シ全圖ヲ皆描キ了ス、此諸物形
 ヲ画クノ術進歩シ斯ニ至ルヲ以テ此章ノ段落
 トス○是ハ唯画術ノ基本耳ヲ示シタレハ猶
 層ノ進歩ヲ要ス此事ヲ終ルハ画手自家ノ勉強
 ニ任スノリ夫墨画ハ此術ノ基本ナレハ是ヨリ
 油画又ハ彩画ノ高上ナル科ニ登ルハト階梯
 謂フヘシ

毛筆或ハ灰筆ヲ以テ臨畫スル圖



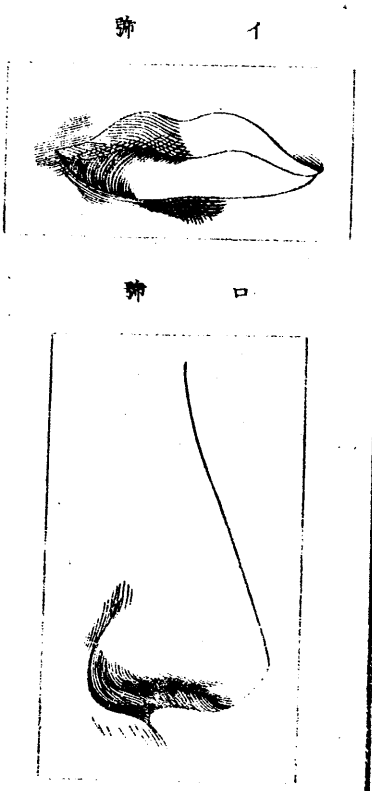
第三章

人物ノ描法

此ニ出ス圖ノ類ハ希臘ノ古昔ノ塑像ニシテ精
 エヲ究メタルモノトレハ是ニテ人體諸部ノ平
 衡ヲ論ス先ツ是ヲ學ヲ以テ最善ノ標準トス○
 學者此論ニテ大ナル助ケヲ得テ直ニ塑像ヨリ
 寫真ヲ成スヲ得ヘシ○此法ハ平衡ヲ得ルニ
 最モ容易キ基本ナレハ學者須ク勉強シテ之ヲ
 徹フヘシ人物画ニハ全備ノ臨本ナリ○然レド

モ何ノ形ニテモ此規則ニテ適ストイフニハ非
 ス唯全備シタル形ノミナリ○此希臘ノ塑像ノ
 圖ハ數種アリテ或ハ少許ノ差異アルモノ多シ
 ○今此ニ各種異體ナルモノハ出サス
 先ツ第一ニ精神ノ居所ナル頭ノ諸部ヲ以テ基
 トスヘシ

イノ圖ノ口ノ廣サハ目ノ一ツ半ノ長サニ同シ
 ロノ上下ノ厚サハ目ノ長ノ半分ナリ側面ノ口
 モ厚サハ正面ト極メテ同シトナレモ廣サハ前



ノ半分ナリ上唇ハ下唇ヲ庇フ意味ニテ少シ出
 シ描カヘシ
 鼻ノ廣サハ目一ツニテ其長サ眉ノ正中ヨリ測

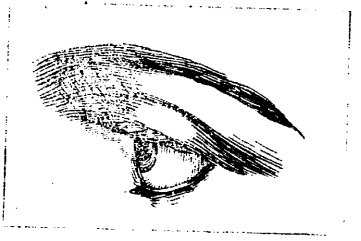
目二ツナルハシ圖ノロ及圖ノハハ○眼睛鼻



○側面ノ目ハ長其半ナリ幅ハ正面ヨリ見タル

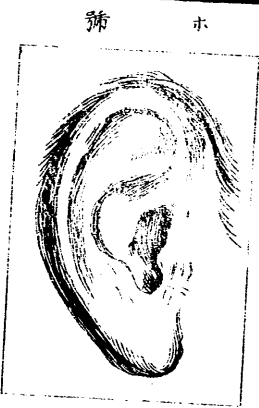
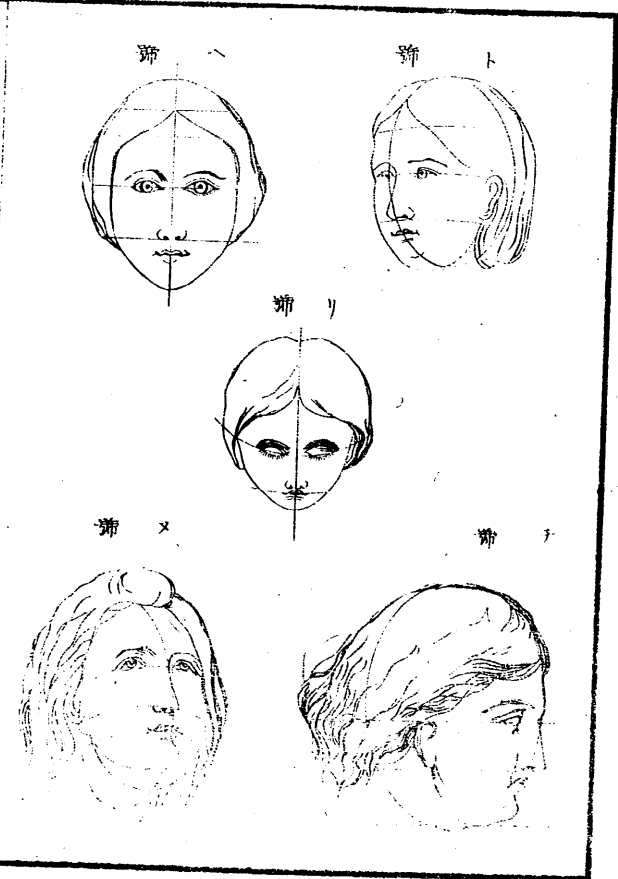
側ノ淚孔并ニ上下ノ眼瞼
及ヒ眉ナリ○眼ハ正面ヨ
リ見レハ極メテ真圖ニテ
睛ハ其正中ニ在リ目ノ幅
ハ長サノ半分ニテ眉ハ瞼
ノ上大抵目ノ長サノ三分
一ノ處ニ在ルヘシ

二 蹄



正シキ平衡ヲ得ル為ニ直下線ヲ引クヘシ備其
正中ノ處ニテ横ニ水平線ヲ引テ上下二部トナ
ス是レ目ノ着クヘキ處ナリ○面ノ輪郭ヲ引テ

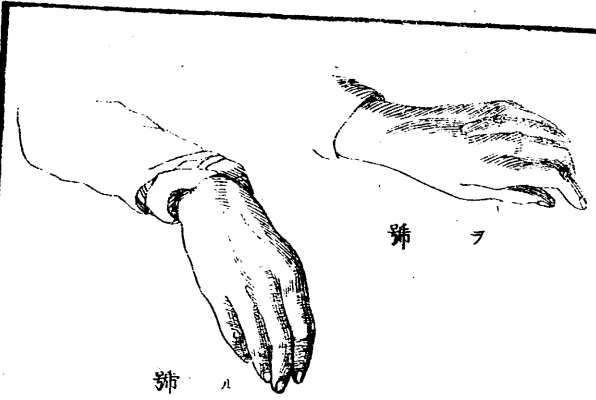
ト極メテ同シ眼ハ楕圓ニテ
睛ハ常ニ其正中ニ在ルヘシ
圖ノニノ如シ○耳ハ其横サ
目一ツニ均シク其長サ目ニ
ツ也圖ノトノ如シ○其次ノ
圖ノハハ面ノ正面ヲ示ス○



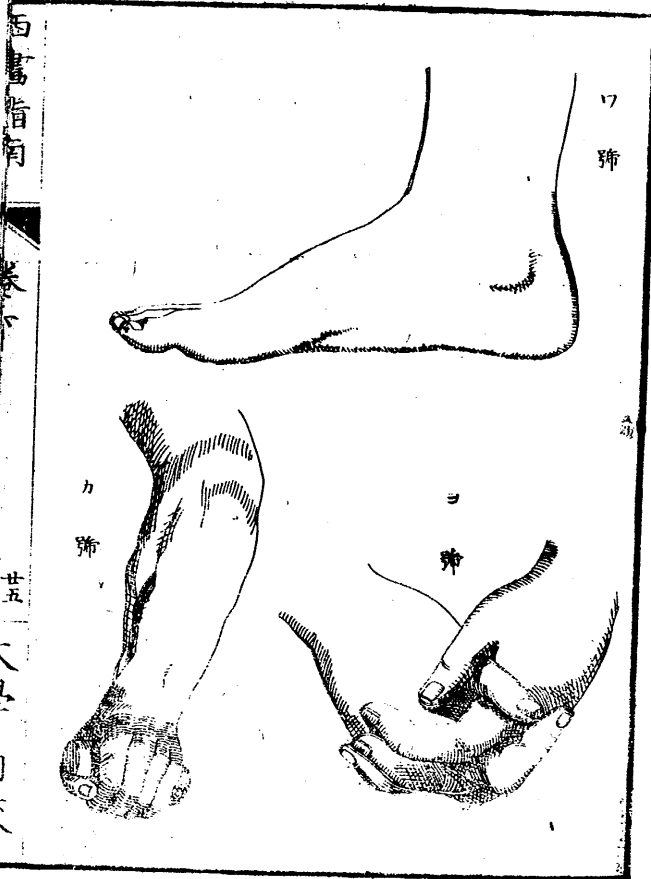
鼻ト同シ長サナルヘシ夫故耳ト鼻ハニツノ平
 行線ノ間ニアルナリ
 圖ノトリリマニテ平衡ノ同シキヲ知ルヘシ
 手ハ手頭ヨリ指先
 向ト同シ長サニテ廣サハ其

後直下線ヲ分チ圖ノ如
 クスヘシ下ノ線ハ鼻ノ
 最下トナヌ處ニテ口ハ
 其下大抵目ノ長リ半分
 ノ所ニ着々其ハ極メテ

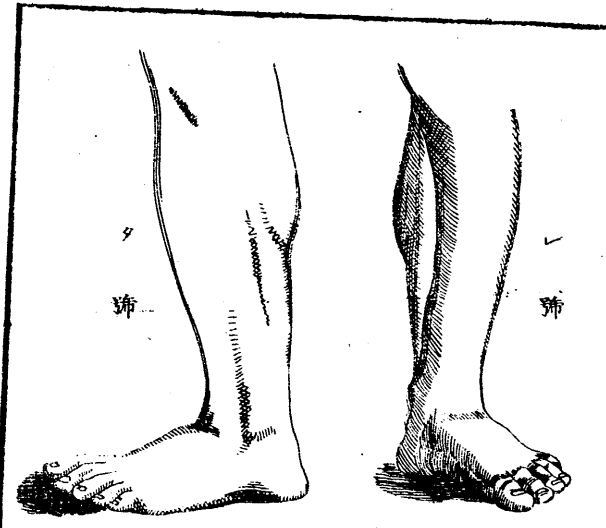
内言抄
卷一
才學抄



半分ナルヘシ圖ノ如シ手ノ横形ハ正
面ヨリ見タルト其長
サ同シカルヘシ圖ノ
如シ
足ノ蹠ヨリ先ハ側面ニ
テ長サ目九ツ厚サ目
三ツナリ圖ノ如シ

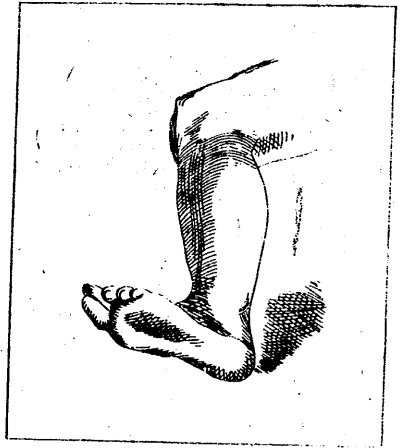


西言抄
卷一
廿五
才學抄



○ 腕ヨリレ
マテノ四圍
ハ手足等ノ
手本ナリ
○ 人體ノ尋
常ノ長サハ
面ノ十倍ニ
テ左右ニ十
分ニ其手ヲ

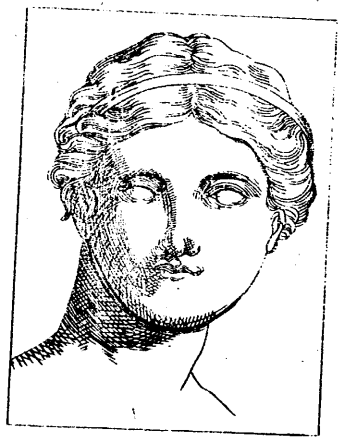
ソ 節



ヨリ視テ頭ニツノ廣サナリ○ 肘ノ長サ圖ノ端
ニ見エタルハ鼻ノ長サ九ツ半ニ均シ○ 手頭ノ

伸ヘ張リタルモ
同シ尺度ナリト
ス
○ 頸ノ廣サハ止
面ヨリ視テ鼻ノ
長サニツナリ兩
肩ノ廣サハ止面

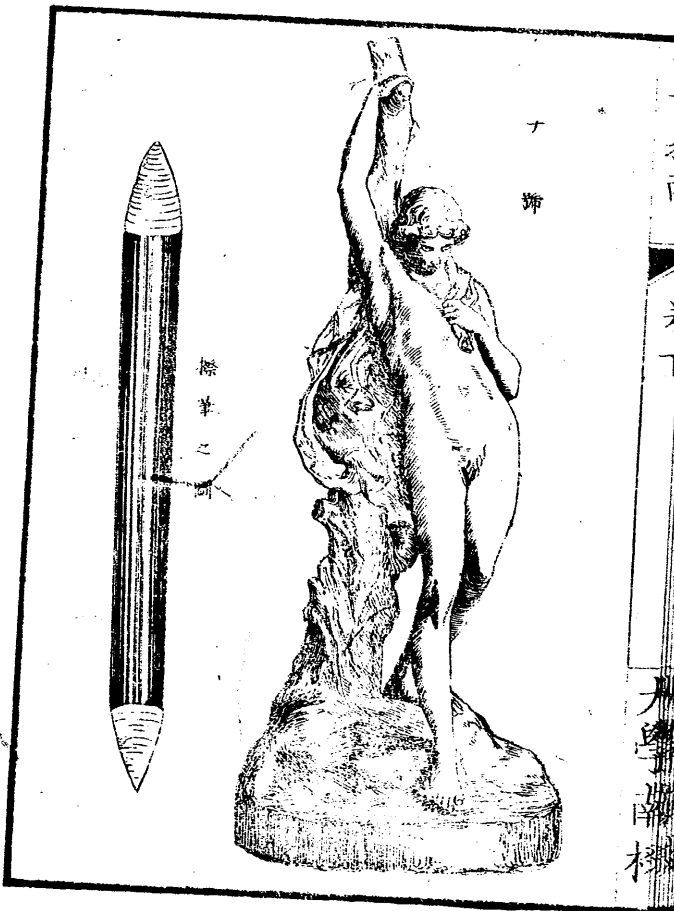
廣サハ正面ヨリ見テ一鼻ト三分一ニ均シ○膝ノ廣サハ正面ヨリ二鼻ニ均シサレト側見ニテハ少シ薄シ



○脚ノ長サ膝ヨリ踵マテ面ノ長サ三ツニ均シ○脚ノ廣サ踝ノ近處ニテ正面ヨリ視レハ一鼻半ニ

均シサレト側視ニテハ差細シトス○以ノ圖ハ前ニ跳タル脚ナリ而テ次ノ以ノ圖ハ半体ナリ

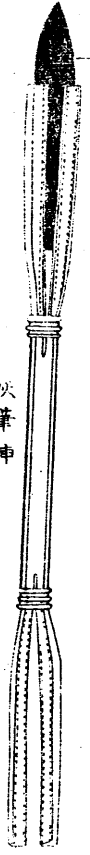




○子及けノ圖ハ全体ノ画ノ手本ニテ生徒勉テ
 倣フヘキモノ也

生徒ノ業此地位ニ至ラハ白壁細工ノ人形又ハ
 其一部ニ付テ學フベシ○其入用ノ具ハ紙ヲ張

ル画板黒灰筆一二本擦筆草或ハ紙ヲ卷テ筆帯
 如クナシ上テ筆帯
シ銀モノ欄少許又ボルトケレヨン等也厚紙カト并
 ニケレヨン紙アラハ猶妙也是ハ薄ク色ツキテ



黒灰筆ヲ能ク受ルモノナリ

諸圖稿ニ向ヒテハ光リヲ左手ノ方ヨリ受クヘ
 シ○其画ケル諸部ノ天然ノ真趣ヲ得ントナラ
 ハ画手勉メテ画幀ヨリ己カ頭ハ後ヘニ退キテ
 坐スヘシ○半体或ハ全体ノ輪郭ハ先ツ勾勒ニ
 テ引クヘシ是ハ画キテ後絹片カ或ハ輕手巾ナ
 トニテ和カニ掃テ脱却スヘシ此法ハ線ヲ擦剥
 シ退ルヨリハ善シトス然スルトキハ紙ノ表面
 ヲ擦毀スルノ害アリ○諸画稿ノ位置全ク備リ

タラハ其後黒灰筆ニテ微細ニ是ヲ滌暈スヘシ
 然シテ手中ニテ朽墨ヲ掃脱ヒハ其描線ハ整然
 トシテ殘ルヘシ其後漸々ニ黒影ヲ施スヘシ○
 諸黒影ヲ施スニハ先ツ黒灰筆ヲ少許微細ニ紙
 上ニ摩擦シ着シ擦筆ニテ其間タヲ擦ヘシ斯シ
 テ其黒影ノ諸部ヲ摩シ了シ其黒影和暈渾厚ヲ
 生スヘシ○勉メテ其手本ノ通り黒影ヲ摩擦シ
 看シ細心ニ其黒影ノ濃淡斑アリテ適宜ナルヤ
 否ヲ推印シ其黒灰筆ヲ尖銳コシ次ノ法ニ及ブ

ヘシ○其法黒灰筆ノ細キ尖ニテ影ヲ悉ク連綴
 スヘシ而メ是ヲ法ニ由テ施為スルトキハ甚ハ
 タ潇洒ナルヘシ○其黒影ヲ画クニ心ニ銘スハ
 キコハ黒影ニ貳種アリ其甲ハ陰ノ影其乙ハ陽
 ノ影ナリ陽ノ影ハ皆斑然トシテ尖リタル稜角
 アリ陰ノ影ハ常ニ淡薄ニシテ麤隅ナク有無渾
 然日方ニ移ルトリ○然ルニ陽ノ影ハ斑然タリ
 ト雖ニ麤隅ノ餘リニ烈ナラス麤漏ノ弊ナキコ
 フ留意スハシ然シテ極暗黒ノ影ハ極明瞭ナル

日方ノ自其傍ニ在ルヘレ○胸像及全体ノ画ニ
 後ノ方ニ倚リテ紙ヨリ離ル、トテ要スヘシ○
 若シ画々時ニ少許ノ寫誤ニ經宿廻シテ其誤
 リタル所ヲ拭キ取ルヘシ



西志指南卷之下終

市川清流校定

北政見書肆

和泉屋 茂兵衛

山城屋 佐兵衛

和泉屋 金右衛門

和泉屋 市兵衛

和泉屋 源兵衛

出雲寺 萬次郎

一家村 佐平